

氏名： 中村 妙子 (NAKAMURA Taeko)
所属： 人間文化創成科学研究科文化科学系
職名： リサーチフェロー
学位： 平成 10 年 3 月 修士 (人文科学) / 平成 19 年 3 月 博士 (人文科学)
専門分野： 中世シリア史
E-mail： nakamura.taeko@ocha.ac.jp

◆研究キーワード / Keywords

シリア / 十字軍 / イスラム (イスラーム) / ザンギー / ジハード
Syria / Crusaders / Islam / Zangid / Jihad

◆主要業績

総数 (1) 件

- ・中村妙子「初期十字軍時代におけるシリアの小都市—その外交交渉とシリアの勢力均衡構図—」『お茶の水史学』, 52(2008), pp.43-76.

◆研究内容 / Research Pursuits

中世シリア社会 (おもに 12 世紀) についての総合的分析をめざしている。セルジューク朝末期の分裂期にあたり、西欧からの十字軍勢力の侵攻にあった 12 世紀のシリアは政治的混乱期とみなされ、その研究も地方史や十字軍史などの個別研究に偏りがちであった。そこで、十字軍国家とシリア諸都市の間に各種協定を基にした勢力均衡構図が生まれたことに注目して、その「対立」と「共存」の分析を行い、ザンギー朝がシリア統一の端緒を開くことが出来たのはこの勢力均衡構図を崩したからであることを実証した。さらに首記の目的のために、勢力均衡構図の中で独立を保ったシリアの小都市や在地のウラマー (ムスリム知識人) の動き、また、北方に隣接するもう一つのキリスト教勢力であるビザンツ帝国と十字軍勢力との関係についても併せて研究している。

◆教育内容 / Educational Pursuits

文教育学部の「外国史入門購読Ⅰ」(おもに1年生対象)を担当した。初学者むけに「史料に触れることの楽しさ」を伝えることを最大目標とし、14世紀に書かれたイブン・バトゥータ『大旅行記』の邦訳(家島彦一訳注)を輪読した。学生が背景や関連事項を自ら調べることで史料の扱い方を学び、高校までの歴史学習とのアプローチの違いを実感するように努めた。また、関連事項に関しては時代を問わず取り上げ、少人数の授業である利点を生かし「なぜ?」という視点を大切に、ひろくイスラーム社会全般について議論を行った。

◆研究計画

12世紀のシリアの政治体制の変化にザンギー朝が果たした役割を、すでに提起したザンギーの政治外交政策のほかに、ウラマー(ムスリム知識人)層との関係の考察を加えることで総合的に明らかにしていく。ウラマー層の独立的政治行動が中世西欧都市の「自治」との比較や同一の視点からの把握にあるという、ともすると西欧の研究者が陥りがちな論理を排除し、また十字軍勢力だけでなくビザンツ帝国も含めたキリスト教勢力の相互関係にも注目し、ザンギー朝の政策の独自性を検証する。

◆メッセージ

<大学院へ入学を希望する人たちの中で、とくに専門分野と直接関わりのない職業に就いたあと大学院への進学を希望する人たちへ>

お茶大は、「学びたい」という意欲を実現させる場です。社会人経験のある学生は、その間に培った柔軟な思考と多角的視野を生かして研究に取り組むことができるでしょう。ぜひチャレンジしてください。歴史分野の場合は、歴史史料をベースにして研究を行うため、外国語や写本読み込みに多くの時間が必要となります。在籍には授業料等費用がかかるので、入学後の円滑な研究のためにも、入学前に聴講等で実際に研究の入口に入っておくことをお勧めします。